

令和5年度 第1回川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会
会議録

日 時 令和5年8月1日（火） 午後2時～午後3時45分

会 場 中央図書館7階
メディアセブン プレゼンテーションスタジオ

審議参加者 【委員】内山秀夫、中原三奈子、中村昌希、鈴木和子、山野栄三郎、一宮しのぶ、山田潤三、溝井留美、海老原和江、大上恭子、江田由佳、増淵久美子、鈴木玲

【事務局】濱田教育総務部長、高野中央図書館長、上野中央図書館副館長、萩原前川図書館長、田口新郷図書館長、川野横曽根図書館長、朝倉戸塚図書館長、渡部鳩ヶ谷図書館長、中央図書館小林庶務係長、宮崎サービス第1係長、増田サービス第2係長、西牧副主幹、橋本主査、篠山主任

欠 席 者 【委員】相樂雅彦、杉林正敏

議 題

- ア 令和4年度図書館及び映像・情報メディアセンターの利用状況と事業報告について
- イ 川口市立図書館の利用に関するアンケートについて
- ウ 「川口市子ども読書活動推進計画（令和3年度～令和7年度）」の展開する施策の取り組み内容・実施状況について
- エ その他について

1 開会

2 会長挨拶

3 会議成立の宣言と会議録署名委員の指名

議長は、川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会条例第7条第2項により定足数を満たしたことにより、会議の成立を宣言するとともに、川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会規則第4条第2項により会議録署名人として中原副会長を指名した。

また、「川口市附属機関等の会議公開に関する要綱」の規定に基づき、この会議は公開である旨を宣言し、傍聴人が1名いることを報告し、委員の了承を得て傍聴人を入場させた後、議事を開始した。

4 議事

○ 議題アについて、資料1に基づく

[意見・質問と回答]

委員

対面朗読の実利用者が1名ということに驚いた。今までもそうだったのか。

事務局

新型コロナウイルス感染症の拡大前は2名の利用者がいた。しかし、感染症拡大の影響で1名の方はご利用をされなくなった。

委員

折角、活動を行われているのだからたくさんの方に利用して頂きたい。

他に意見・質問なし

○ 議題イについて、資料2に基づく

[意見・質問と回答]

委員

アンケート期間が9日間では少ないのではないか。この期間にした理由があるのか。

また、前川図書館は回答率が少ない。これはなぜか。

事務局

アンケート期間に関しては5年前に行った前回アンケートの回答と比較するために同様の期間を設けたものである。

前川図書館の回答率に関しては、利用者の方々のご協力が得られなかったためであると考えられる。

委員

前回との比較も確かに重要ではあるかもしれないが、アンケートを行うのであれば、長い回答期間を設けていただき様々なタイミングで来館した利用者の回答を反映するべきである。また、回答率を上げる工夫をしていただきたい。(要望)

委員

今回の意見を踏まえて、何を目的としてアンケートを取るかということを改めて考えていただくきっかけとして頂きたい。(要望)

事務局

今後のアンケート集計に関する貴重なご意見として頂戴する。

他に意見・質問なし

○ 議題ウについて、資料3に基づく

[意見・質問と回答]

委員

皆が思っているほど子どもは本離れをしておらず、少なくとも私の周囲では子供たちはよく本を読んでいる。特に小説が人気である。

子どもへ本を勧める際の指針としたいので、ラッキーバッグ等の企画で司書の方が選んだ本や、人気の本を具体的なタイトルで知りたい。ランキングのようなものを気軽に見られるようにしていただきたい。

事務局

それぞれの学校などで抱えている事情はあるとは思うが、今後も子どもが足を運びやすい図書館運営を心掛けたい。

新刊の図書や、司書が選書したものを手に取れるよう情報発信や企画を心掛けているところである。

ランキングは図書館の検索機で貸出冊数の多いものや予約の多いものなどを見ることができる。そういった検索機の使い方を含めて学ぶ場を設けることを学校側と協力してさらに進めていきたい。

委員

子どもは今タブレットを支給されて勉強に利用しており、インターネットが身近である。しかしながら、電子図書サービスを知る子どもは少ないように感じる。折角、学校でパソコンやタブレットを使っているのに、使い方も含めて利用の仕方を教えていただける機会を設けていただきたい。(要望)

事務局

電子図書サービスは令和4年度10月から始めた新しいサービスではあるが、おっしゃる通り、まずは知っていただくことが重要であると考えている。学校教員向けのチラシにも電子図書サービスの情報を載せ、更に今年度は教頭会でも周知を行った。また、適応指導教室では、使い方の実演を取り入れながら子ども達向けにも紹介を行った。

今後も新しいサービスを利用して頂けるよう、周知方法の工夫を図っていきたい。

委員

おはなしを子どもたちに届けるボランティアをしている。

報償金を無くすということを伺いました。会によって報償金の使い方は様々であり、必要な会もあれば、必要ない会もある。一律で報償金を無くすということが、おはなし会というボランティアを長く続けていく中で、子供たちにとって良い方向にいくのか、お話を伺いたい。

事務局

おはなし会の実施はとても重要であると認識している。

報償金削減の話は、中央図書館方式に統一をし、予算全体を改めて見直せないかが発端であるが、団体によっては会員減少の話も聞いていたことから、いい機会なので会の現状を聞きたかったこと、また、このような聞き取りを今まで実施していなかったため報償金以外についてもご意見等を聞きたかったことも含め各館長から話をさせていただいた。

但し、報償金削減の代わりに研修の講師料や消耗品代、ボランティア保険などを負担するのはどうか。また、おはなし会や研修会開催に関する準備や講師派遣の手続きなどの負担も軽減できるのではないかと、それ以外にも、図書館でできることがあれば検討することをお伝えし、あくまで、このような代替え案はどうかという提案をさせていただいたものである。

様々なご意見をいただき今後のおはなし会の実施方法や在り方も含めしっかりと協議するが、報償金をゼロにすることは現段階では考えていない。

委員

今、行っていることができなくなるのではないかと、という不安を持っている会員もいる。行っている活動が今より縮小しないようにしていただきたい。

(要望)

委員

各学校や地域図書館が連携して活動していくことが大変重要なのではないかと。これは学校だから、これは図書館だからと分けるのではなく、市内の施設で連携を密にしていきたい。

幼少の頃、図書館のおはなし会に参加した子供たちは、成長したのちも図書館の利用をする。そういった繋がりを保つためにも、おはなし会を支えている方々が萎えないような形にさせていただくことは必要である。図書館もそういったことは理解しているとこちらも理解しているので、今後もボランティアとの連携を強くしていきたい。(要望)

委員

幼少期から、図書館とのつながりを大切にしていきたい。(要望)

他に意見・質問なし

○ 議題エについて

[意見・質問と回答]

委員

コミュニケーションボードを用意したということだが、地域館も使っているのか。

事務局

地域館では現在使用していない。中央図書館で使用感を確かめ、改善を行い、地域館でも活用できる体制を整えたい。

他に意見・質問なし

以上

令和 5年 8月 日

川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会

議 長

会議録署名人